

令和 7 年度

第 2 回多治見市都市計画審議会

議 事 要 旨

- ・開催日時：令和 7 年 10 月 29 日（水）10:00～12:00
- ・開催場所：多治見市役所本庁舎 5 階 全員協議会室

《委員》

区分	所 属	氏 名	出欠
会長	豊田工業高等専門学校准教授	佐藤 雄哉	○
委員	陶都信用農業協同組合常務理事	森川 顕	○
〃	多治見商工会議所専務理事	長江 信行	○
〃	センチュリー21 サグチ不動産代表	佐口 悟	○
〃	多治見市議会議員	仙石 三喜男	○
〃	多治見市議会議員	吉田 企貴	○
〃	市民	飯田 静香	○
〃	市民	水野 隆吾	欠

《事務局》

- ・多治見市長：高木市長
- ・多治見市都市計画部：福田部長
- ・多治見市都市計画部都市政策課：小玉課長、小木曾課長代理、藤田総括主査、西尾主査
- ・多治見市新庁舎建設事務局：長谷川局長、山本課長代理、中村総括主査

《配付資料》

- ・会議次第
- ・委員名簿
- ・席次表
- ・【意見照会】：第 1 号議案
資料 1 第 1 号議案 多治見都市計画自由通路の変更について
- ・【意見照会】：第 2 号議案
資料 2-1 第 2 号議案 多治見都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針の変更について（意見照会）
資料 2-2 新旧対照表
- ・【意見照会】：第 3 号議案～第 6 号議案
資料 3 第 3 号議案～第 6 号議案の説明資料
資料 新旧用地地域対照図（地区別）
- ・【意見照会】：第 7 号議案
資料 4-1 第 7 号議案 第 3 次多治見市都市計画マスタープラン中間改訂について（意見照会）
資料 4-2 第 3 次多治見市都市計画マスタープラン 計画書（案）

1 開会

- ・ 7 名／ 8 名の出席となり会議の成立を報告。

2 市長挨拶

- ・ (高木市長挨拶)

3 会長挨拶選出

- ・ (会長挨拶)
- ・ 議事録署名人として長江委員と吉田委員を指名。

4 議事

(1) 【意見照会】第 1 号議案 多治見都市計画自由通路の変更について

【意見概要】

- 都市計画自由通路の変更自体に意見はないが、多治見駅の北口は西側に多治見駅北自転車等駐輪場があり、利用者や歩行者が多くいる中で、西側に降りる階段を撤去してしまうと利便性が下がるため、新庁舎の建設と合わせて人の流れの方法を整理してほしい。

【詳細】

- (資料 1 を事務局が説明)

○委員

- ・ 西側の階段がなくなることによって、西側ロータリーから駅への流れが悪くなり、端的に言うと不便になると思う。駐輪場から駅へ行く人が多く、階段がなくなると、新庁舎もしくは東側のエスカレーターと階段を使う必要があり、不便になると思う。また、車での送迎が東側の方に偏ってしまうように思う。先ほどの資料ではピーク時間だと 1 時間あたり 579 人が通るとあり、これがどれくらいの交通量かはあまり想像がつかないが、この人たちが全て東側に移ることになることについてどう考えているか。

→事務局

- ・ 自由通路から 1 階に降りるルートは、東側のエスカレーターを使ったり、庁舎の詳細な図面は来月に行くパブリックコメントの際に提示するが、庁舎内を通ることも考えている。西にそのまま降りるという観点だと歩数的には増えてしまうが、一方で地上まで降りるルートが増えるとも捉えており、新庁舎建設に伴って起きる事象だと考えている。また、交通量について利用者数の時間別の推移を見ると 7 時台が圧倒的に多く、庁舎が開庁している時間帯は 7 時台と比べると少なく、夕方になるに連れて少しずつ増えていっている状況にある。階段の位置が変わることで、ロータリーの使われ方がどれくらい変わるかは計算が難しいところではあるが、都市計画変更としては資料に示す内容で行いたいと考えている。

→委員

- ・ 車両が東側にあるタクシー乗り場の方に集中する気がする。

→事務局

- ・ 会議資料に図面はないが、西側のロータリーは現在、工事で形状が変わっている部分もあるが、引き続き一般車の乗り降りできる空間を確保しようと考えている。階段の位置で人流にどのような変化があるかは継続して観察していくべきと思うが、すごく不便になることはないという認識でいる。
- ・ 市としても様々な検討を行った結果、この形で進めたいと考えている。若干不便になるのではという指摘についてはその通りではあるが、今まで階段を使って西側にすぐ降りられたものが、階段の形状を北側に直進する形へ変更することで、およそ 40m 距離が増える計算になる。エスカレーターを使った場合は、30m ぐらいになる。不便をかける部分はあるが、庁舎内の階段やエレベーターをえるように準備しているため、今の計画で進めたいと考えている。西側については、現在は暫定的な形状であり、今後は使いやすい形へ変更しようと思っている。基本的に送迎用の

議事概要

レーンを確保して、車両が動く部分と乗り降りする部分を計画し、完成後は従前と比較して使い勝手の良い形になるよう計画している。

○委員

- ・新庁舎の会議でも説明があったのであれば申し訳ないが、多治見駅北自転車等駐輪場から登っていく階段はなくなるということか。とても不便になると思う。工事の関係で一時的に壊すものと思っていたが、なくなるのか。

→事務局

- ・西側に降りる階段がなくなることが課題だということは認識している。本日は資料を提示できないが、新庁舎の中を通れる仕様を考えている。また、説明の中で誤解されたかもしれないが、開庁時間とそれ以外の時間帯でセキュリティを分けるため、8:30にならないと建物が開かないとか、17:15になると建物が閉まってしまうとかではなく、庁舎内を通路として使える時間は8:30よりも早く、17:15より遅い。通路としての利用時間を24時間にすることは難しいが、なるべく早く、遅くまで開けることを考えており、どれくらいで運用するかは検討していきたいと考えている。

→委員

- ・本来は新庁舎を議論する委員会と言わなければならなかったかもしれないが、ここで言いたいこととしては、設計思想的な部分で大丈夫なのかということである。出口をどこに設けるかは、人流をどうするかということと関係がある。ロータリーより駐輪場を使う人がかなり多く、歩いてくる人も多い。朝、西側の階段と反対側を交互に立っているが、バスも含めるとエレベーター側の方が若干多いが、ほぼ同等の人数がいる。現状は、自由通路から東西に降りることができる形状だが、西側の出入り口をなくすという計画で、運用面でカバーするのは本質的ではない気がする。西側にも出口はあって然るべきではないか。単純に市民からの受けが悪いと思う。

→事務局

- ・階段の形状は、都市計画決定上は北側に降りる形だったものを、できるだけ敷地面積を広く取ろうとして暫定的に西側へ降りる形にしていたというのが実態だと思う。都市計画上は、当初計画の形状を踏襲して駅北庁舎に接続するよう整理したと考えている。そこに、庁舎1階部分の一部を通路として利用できるように運用することで、これまでと変わらない動線を確保できるとよいと考えているため、新庁舎建設の部署には都市計画審議会から意見があったことを伝える。

→委員

- ・階段がなくなるとは思わず、これまでの説明を聞き漏らしており申し訳ないが、普通に考えて東側の階段は残って、西側の階段はなくなるというのは市民が怒ると思う。

→委員

- ・新庁舎の委員会を傍聴して説明を聞いていたが、私も聞き漏らしていた。事前レクを受けてから資料を何回も読んだが、すごく引っかかっている。先ほど委員も言っていた通り、これから多治見市がコンパクトシティを目指していく方針であれば、都市計画の課題があるとは思いますが、使い勝手からいくと階段がなくなって良いのかと思う。多治見市の駅北のまちづくりを考えると、一考がある部分かなと思う。

→事務局

- ・市民から見ると、使い勝手の面で西側へストレートに降りることができなくなることは、印象が変わると感じている。西側の階段を撤去するということはこれまでも説明してきたが、形状が目に見えてくると、驚かれる方もいると思う。ただ、まちづくりや都市計画の観点からいうと、ずっと「西側ロータリー」と話してきたが、実はロータリーではなく市道である。都市計画としては車の通行は東側で処理するように考えている。自由通路についても、北側の出口をなくすことはさすがにできないが、東側に降りることはできるため、通路としての機能は維持できると思っている。心配の声があった通り、西側の利用者が多いことは認識しており、そこに対して利便性の維持を図る必要はあると考えている。繰り返しにはなるが、庁舎内の利用や、仮に遠回りしてもそこまでの距離ではないということも含め、なるべく市民の利便性を守っていけるように配慮していきたい。

→委員

- ・本日は意見照会のためこれで発言は控えるが、西側は基本的に乗り降りを止めて、北側の庁舎も

議事概要

しくは東側のロータリーを使う都市計画であるため、階段は撤去し、人流も原則は西側に来ないようにする、という意味であれば、賛否はあるが理解はできる。ただ、現実的には駐輪場もあって人流も多い中で「階段はなくなっても、庁舎内を使えば 30m くらいだからいいでしょう」という説明をされると、市民は怒ると思う。30m はけっこうな距離だし、朝急いでいる人からすると怒りがこみ上げるくらいだと思う。せっかく良いものを作っている中で、この期に及んで計画を変更することはできないかもしれないが、可能であれば方法を考えてほしいし、できないにしても「庁舎を通れるんだからいいでしょう」という説明はやめてほしい。都市計画の哲学として、西側から人が入ることを想定していないからこういう設計にした、という説明であれば分かるが、人流が西と東で相当程度あることを踏まえると、計画上は合理性を考えてほしい。「建物の中を通ればよい」「30m くらいしかない」と言うのは市民感覚からだいぶずれていると思うため、そこだけ配慮してほしい。

○委員

- ・西側の階段を残すことは、技術的に不可能なのか。庁舎へ北側にまっすぐ伸びる階段があることはよいと思うが、西側の階段を残すことは建築上不可能なのか。

→事務局

- ・現状の設計では提示している図面の通り進めているため、ここに階段を追加する可能性があるか検討する。また、西側に人を降ろすことへ制限があったかと言われると、大きな理由はなかった。市としては、庁舎内に階段とエレベーターがあるため、西への人流はある程度確保できていると考えていた。
- ・今回の事業では、自由通路の北側に新庁舎を整備しているが、自由通路と庁舎の高さが 1 m 程度ずれている。庁舎の 2 階レベルと合わせるため、接続部分として階段を整備しており、そこから西へ降りる階段を設置することは形状的に難しいと思う。もし西側へ降ろすのであれば、他の部分に階段を整備する必要があるが、周辺の敷地が市有地であるかという問題もある。そのため、今の段階で西側へ降りる方法を回答することは難しい。

○会長

- ・一番の問題は、新庁舎の詳細が公表されておらず、人の流れが分からないことである。だから、我々も議論に困っている。ただし、西側に降りられるようになるかは都市計画の変更とは違う話であり、新庁舎建設の中で検討してほしいということで、この都市計画審議会としての意見は終わりにしたい。都市計画変更の原案としては、自由通路から北側に階段を設置する形になっていたものを、新庁舎の 2 階に接続させる形とし、北側に伸びる階段は削除して現行の設計に合う形に変更するということである。皆さんの意見を踏まえると、都市計画の案の変更自体は問題ないが、新庁舎の建設に伴い、人の流れがどう変わるかは明確に整理をして、説明した方がよいということだと思う。それも十分に検討してほしい。
- ・新庁舎の形状や人の流れについて、市民に公開されるのはいつ頃の予定か。

→事務局

- ・11 月上旬にパブリックコメントを実施すると聞いており、そこで庁舎の形状や人の流れ、機能の配置が分かるため、それをご覧になってほしい。それを踏まえ、今回の議論が落ち着く場所があるかどうかを判断すると思う。都市計画審議会がパブリックコメントより前になってしまったため、このような議論となってしまうお詫び申し上げる。

→会長

- ・人の流れがどうなるかについては、新庁舎の建設と合わせて議論してもらい、都市計画の原案としては今の意見を反映していただければと思う。

(2) 【意見照会】第 2 号議案 多治見都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針の変更について

【意見概要】

- 意見なし。

【詳細】

○（資料 2-1、2-2 を事務局が説明）

○会長

- ・計画を中間見直しする中で、市の人口は減少傾向だが、産業規模は製造品出荷額、商品販売額、総じて合わせると多治見都市圏としては増加傾向となっている。人口と産業規模の現況値が変わると、都市として産業に必要な用地の算定基準が変わると思う。市として、区域マスタープランが変わることで、産業については用地が必要になるという考え方になるという理解でよい。

→事務局

- ・その通りである。

→会長

- ・計画改定はいつ頃の予定か。

→事務局

- ・令和 9 年 2 月の予定である。

（３）【意見照会】第 3 号議案 多治見都市計画区域区分の変更について

第 4 号議案 多治見都市計画用途地域の変更について

第 5 号議案 多治見都市計画特別用途地区の変更について

第 6 号議案 多治見都市計画風致地区の変更について

【意見概要】

●意見なし。

【詳細】

○（資料 3 を事務局が説明）

（４）【意見照会】第 7 号議案 第 3 次多治見市都市計画マスタープランの中間改訂について

【意見概要】

- ネットワーク型コンパクトシティを説明する「あつめる・ととのえる・つなげる」は、市が伝えたい内容と各項目が示す内容、語呂などを踏まえ、順番を検討すると良い。
- 課題の整理表で一部記載のない大学・上下水道についても、何かしら内容を追加してはどうか。
- 将来都市構造図から特定の事業者名を削除した方が良い。
- 文中にある和暦には、年代が分かるよう西暦を併記してほしい。
- 地域別構想について、各地域の現況は最新の事業内容や事業を整備した効果などを追加してはどうか。
- 地域別構想のエリア分けは、地域の特性をより掴めるように次回以降の計画改訂時に検討した方が良い。

【詳細】

○（資料 4 を事務局が説明）

○委員

- ・全体的に分かりやすくなったと思うが、9 頁の「あつめる・ととのえる・つなげる」の順番には意味があるか。「あつめる」は点、「つなげる」は線、「ととのえる」は面と思う。一般的な感覚からいうと、点・線・面で「あつめる・つなげる・ととのえる」の方が語呂も含めて良いと思う。

→事務局

- ・「あつめる」を最初にした理由は、人々が生活する上で必要な施設である都市機能を各拠点に作ることである。次に「ととのえる」としたのは、そこで暮らす方々の住環境を整えて、最終的には人口密度が低下していくことから住環境も「あつめる」ことになることを想定している。そういった便利を集めたり、暮らしを整えた結果として、まちと人が「つながる」ような環境になると考え、この順番とした。ご指摘の通り、ここで強調したい部分は分かりやすさや伝わりやすさ

議事概要

がメインであるため、順番にこだわるより、キャッチーなイメージを持ってもらいたいため、4文字・4文字・5文字の流れになるよう順番を検討する。

→委員

- ・ここでは「まちなかにあつめる」としているが、郊外に校区ごとで集めることも想定しているか。

→事務局

- ・明確には書いていないが、「まちなか」は多治見駅周辺だけでなく、各地域の拠点にも集めることを想定している。ただ、何を集めていくかは地域の事情もあり、階層的に集めるイメージを持っている。各校区かまでは言及していない。

→委員

- ・ネットワーク型コンパクトシティを目指しているため、基本的には駅周辺に都市機能を誘導し、郊外は住環境を整備するという形だと思うが、現実的には公民館や支所、郵便局があり、レイヤーはあると思うが、郊外に集めなければならない都市機能と、中心部に集めなければならない都市機能がある。いずれにせよ「あつめる」ことをするということは分かった。郊外についてもつながっていることで中心部の都市機能を共有できることを考えると、都市計画の機序やメカニズムとして、集めてつなげるから整うわけで、そういう意味でも「あつめる・つなげる・ととのえる」の順番の方が良いと思う。

○委員

- ・9頁の中段にまちづくりを進める上での戦略があるが、「都市の持続可能性の確保」と「地域の魅力向上」の2つの戦略があるなら、①②とした方が分かりやすいと思う。

○委員

- ・前回、委員からの指導を受けて、この出来上がりになったのは素晴らしいと改めて思う。「あつめる・ととのえる・つなげる」について、この順番にこだわりがあるのかなと思う。金融機関の立場から申し上げると、これだけ建築資材が高騰して、住宅ローンの申込額が恐ろしいほどの金額になっており、アメリカは教育ローンが延滞していたり、クレジットカード会社が倒産してマイカーローンがサブプライムになる可能性が出ていたりするため、安くて安心して住環境を整えるから、まちと人がつながると思う。私の立場からいくと「ととのえる」はこの位置で良いと思う。全体は見ず、ここだけを見て発言している。私は、安心してここで暮らし、母親が元気に働きにきてほしいのだが、住宅ローンのために母親が必死に働いて、家事や子育てをしている。我々の組織は母親を全面的に応援するというモットーがある。

→事務局

- ・個人的には住環境を整えないと、つながるにもつながらないのかという思いがあるため、順番は悩んでいきたい。ただ、この部分は、市民が聞いて「たしかにそうだ」「こういう方向を目指しているんだ」と思ってもらえることが大事であるため、語順を優先した方が良いのかなと考えている。

→会長

- ・施策を進める上では、そうした情報も必要と思うため、参考にしながら進めてもらいたい。

○委員

- ・34頁について事前レクでも指摘したので、この場では簡単に言うだけにする。課題の整理表は非常に見やすくなったと思うが、大学と下水道の部分に「ー」がある。整理した上であえて入れていないのだろうとは思いますが、見栄えの面だけだが、何かしらはあると思うため、入れてはどうか。強くこだわるわけではないが、大学で守りの観点で言うと、今までは多治見市内の高校生は市内で大学に通うことはできなかったため、進学に伴う市外流出を防ぐという考え方はあると思う。下水道に関しては、あって当たり前ではあるが、これから当たり前ではなくなる中で、上下水道の整備はまちの魅力にもつながると思うし、環境にやさしいまちのPRにもつながると思う。左右対称になっている以上は、何もないとするより、何かしらの視点を書いてある方が良いと思うため、一考してほしい。

→事務局

- ・発言内容を踏まえ書き足す方向で検討する。

○会長

- ・37 頁の将来都市構造図について、拠点を整理して非常に見やすくなったと思う。新しく大学を追加しているが、図中に事業者名などの固有名称を入れることはあまりないように思う。多治見市として大学という機能が拠点としてすごく大事であることは理解するが、令和 12 年の将来都市構造図として、図中にある民間事業者がそこにいるかは分からないし、大学を都市施設として都市計画決定することもないと思う。将来都市構造図に大学を拠点として描くことは重要だが、固有名称は入れない方が良いと思う。

→事務局

- ・ご指摘の通りのため、“大学”と修正する。

○委員

- ・11 頁の「進む人口減少、少子化、高齢化」の文中に令和 32 年とあるが、第 8 次総合計画では和暦の後に 2050 年と西暦を明記して、年代が認識できるようになっている。各グラフにはカッコ書きで西暦があるため、それを見れば分かると思うが、文中にも表記してはどうか。
- ・13 頁の「⑤ 中心市街地では、駅北、駅南の人口が増加している一方、川南では減少」とあるが、駅北・駅南・川南のエリアについて市民がどこまで正確に捉えているのか、この間の本庁舎の意見交換会でも同様のものがあつたため感じる。図面を見ると、川南が中心市街地のコンパクトシティの核でありながら、人口が減少していることに対して心配している。

→事務局

- ・当ページの和暦と西暦は併記する形に改める。
- ・5 年前の審議会でも川南に対して意見があつた。駅の北側と川南のまちの成り立ちは異なり、駅北は土地区画整理事業が終わってやっと人口が増えだした状況にある。駅南はここ 10 年程度の動向をみるとマンション建設が多く、人口が上向いている部分がある。川南は古くからあるまちということもあり、人口が減っている部分はあるが、一方で古い長屋を新しくアパートやミニ分譲しているケースがみられ、リバイブの傾向もあると思う。本庁舎跡地の活用が今後の課題になる中で、人口の動向を踏まえたまちづくりを考えることが必要かと思うが、川南は需要が低いエリアだと思う。図の見せ方として、大きくエリア分けを行い、傾向が見える形とした。

○委員

- ・68 頁の道路にラウンドアバウトの記載がある。私もここはよく通り、安全になったと感じている。現状は事故も減少していると思うため、現況部分にそうした内容を追加してはどうか。また、自由通路の 2 行目に「駅南北で行われるイベントなどの取組を波及する」とあるが、自由通路自体で例えば美濃焼祭のメイン事業や駅モールなども開催しているため、ここの項目は「自由通路や駅南北で行われるイベントなどの取組」と追記してはどうか。
- ・72 頁について質問だが、「にぎわいと利便性（市街地）」の真ん中辺りに「市街地開発事業の実施を検討する機運が現れた地区を支援します」とあるが、「市街地開発事業の実施」の具体的なイメージと、実際にそうした機運が高まる可能性のある地区は現在あるかを教えてほしい。

→事務局

- ・68 頁については、追加する。
- ・72 頁については、まず市街地開発事業は土地区画整理事業や再開発事業を想定している。機運が現れた地区について、現在はまだない。ただ、今後 5 年間で急に機運が高まった場合、こうした文章があると都市計画決定をする際の根拠の 1 つとなる。

○委員

- ・76 頁の東部・北部丘陵地エリアの地場産業について、前回の審議会でも指摘して前段部分は変更しているが、陶磁器産業が「令和 4 年に 615 億円まで回復」とあるが、回復しているイメージがない。21 頁にある製造品出荷額のグラフをみると金額は 615 億円まで上がっており、私自身も調べてみたが、要因はあまり分からなかった。もしかすると、リニア建設の関係で、窯業・土石に分類されるセメントコンクリートが増加したのか、もしくは誘致した企業が 2019 年に工場稼働しているためそれが増えたのかなと思うが、よく分からない。ただ、陶磁器産業が回復した

議事概要

イメージはない。コロナ禍で落ち込んだ分が回復なら分かるが、この表記は違和感があるため検討してほしい。

- ・80 頁の住環境に「空き家の利活用に向け、リフォームや建直しを支援していく」とあるが、都市計画で積極的に支援事業をしていると思う。大事な部分のため、強調して記載してはどうか。
- ・81 頁の地場産業の赤字部分について、セラミックバレー構想の推進を追記しているが、それに加えて現在、多治見市・土岐市・瑞浪市・岐阜県で美濃焼のリサイクル事業に力を入れて取り組んでいるため、それも一緒に加えてはどうか。この事業はMINOサステナブルセラミックプロジェクトというが、「セラミックバレー構想やMINOサステナブルセラミックプロジェクトなどの取組を支援します」としてはどうか。
- ・西部・南部丘陵地エリアについて、86 頁にあるまちづくりの整備方針及び取組の部分になるかもしれないが、このエリアには「三の倉市民の里 地球村」という里山を活用した自然の中で様々な体験ができる施設を地域が運営を予定している施設がある。都市計画とは違う内容かもしれないが、何か記載があっても良いように思う。

→事務局

- ・76 頁の窯業に関する内容は、誤解を招く表現を改めようと前段の文章を修正したため、第5章についても文言を修正する。
- ・80 頁の空き家に関するPRについては、50 頁にある住環境の形成方針の中で取組内容について写真などを使って紹介している。PRできる部分は文言の検討を引き続き行う。
- ・81 頁のMINOサステナブルセラミックプロジェクトは、商工観光課とも相談して記載する方向で検討する。
- ・地球村は、施設の方針が決まっている内容と思うため、現況の取組内容や今後の方針を追加する。

○委員

- ・77 頁の新規産業に「森下テクノパークでは、造成工事が開始」とあるが、すでに造成工事は終了していると思われるため、表現を修正してはどうか。
- ・81 頁の地場産業の中で、陶器・陶磁器・タイルなどの表記はあるが、タイル業界は能登半島地震後に苦戦しているという話を聞く。新たに倉庫業や運輸業などの形態の事業が出てき始めているように思うため、その辺りの表記が必要ではないか。

→事務局

- ・77 頁について、森下テクノパークの進捗状況を再度確認し、内容を更新する。
- ・81 頁について、地場産業は陶磁器産業やタイル産業として内容を記載している。指摘のあった倉庫業などの動向は、企業誘致というほどではないかもしれないが、新規産業の誘導や産業の変化という内容になる。文言をどうするかは検討するが、例えば笠原地区は農地転用が盛んで宅地化が起きていることも承知しているため、認識として持っておきたい。

○委員

- ・都市計画マスタープランというのは、企業でいうと企業理念や長期事業計画であり、大きな枠を示すものと思うが、その中でも近々で実施すべき事項として人口減少や空き家、土砂災害、内水洪水などの防災など、様々あると思う。それは多治見市だけでなく、近隣自治体も同じような課題を抱えている部分があり、それらを解決、少なくとも現状維持しようと思うと、よほどのキラーコンテンツがあったり、スピードを上げて実施したりしないと、結局この計画も惰性になってしまう気がする。資料2-1にもあったが、県の都市計画の変更がなぜ令和9年2月なのかと思った。説明の中では県の都合で指示されたとのことだったが、区域区分の方針にある人口や産業規模の変更は前回の国勢調査によるものであり、今まさに国勢調査を実施しており、令和9年2月にはまた作り直さないといけなくなると思う。都市計画審議会に参加するようになって、毎回似たようなことを感じるため、意見と言うより感想である。

→事務局

- ・区域マスタープランの変更を令和9年2月に実施することは、今年言われた。市もそれに合わせて計画を改訂することも考えたが、県からは市は独自で最新データを活用してもらって構わないと言われている。県に合わせずとも市の方針を決め、県は県で来年度に決めるということですみ分けている。データは基本的に最新のものを使用している。

議事概要

- ・キラーコンテンツについては、今までの都市計画は人口減少や人口密度が低下する中で、まちが衰退する危機感や、国がコンパクト・プラス・ネットワークと言っているように戦略的な撤退として、どう縮小するかという部分がかかなりトピックとして出ていたため、それに沿って計画を作ってきた。ただ、今回は戦略を2つあると説明したが、人口減少はどうしても避けられないため、それをまず対応しなければならないが、それとは別に攻めの都市計画という部分についても、守りと攻めを整理して踏み込んでいる。他市の都市計画マスタープランでは、あまりここまでしていないと思っている。キラーコンテンツがこれだとは言にくいですが、大学誘致の動きはキラーコンテンツになるよう、全庁をあげて取り組んでいる。
- ・都市計画は20年先を見越して、5年ごとに変更していくものになる。これは土地の利用が変わっていく現状を見ながら、5年前に見た20年後の姿を、5年ごとに更新していくものが都市計画だと思っている。5年スパンをずっと続けていくこと自体が、過去のモニタリングでもあり、想定していた土地利用と異なる動きがあったとき、今回だと特に大学誘致はキラーコンテンツになる可能性が高いものに対応した都市計画へアップデートしていく作業がとても大事だと思っている。今回は中間改訂であり、ここまで大幅に変えることはしないことがほとんどだが、一歩踏み込んで守りと攻めではないが、「持続可能なまち」と「選ばれるためのまち」の視点で整理して、それぞれ課題を挙げた上で章立てをしているのは、都市計画の視点で画期的に示していると市としては評価しているため、その部分を評価してもらえると幸いである。

→委員

- ・否定しているわけではなく、市民として協力しながら、多治見のまちづくりを作っていく指標になるもののため、それはよいと思う。ただ、果たしてどこまで実現できるかという不安の中で、ネガティブなことが起きているため、お互いに共有しながら進めていければ良いと思う。

→事務局

- ・ネガティブな内容を洗い出して課題として挙げるということはとても大事であるため、その視点を持って取り組んでいく。

→会長

- ・なぜ5年に1回実施するかというと、都市計画法で都市計画基礎調査を計画改定の前に実施するよう決められており、それが5年間隔となっている。委員の指摘としては、国勢調査があるのであれば5年にこだわらず、3年で改定しても良いのではという趣旨かと思う。それはその通りで、そうしたことも含めて今後は戦略的に考えていくことが大事だと思う。

○委員

- ・67頁のにぎわいと利便性（中心拠点）について、新庁舎の建設にあたり、工事期間中は虎渓用水広場が縮小されると思うが、とても良い広場で、若い人や新しいフリーマーケットやキッチンカーの出店もあり、もっと広げても良いのではと思う。新庁舎建設にあたり広場を縮小はしないかを確認したい。また、夕方は学生が勉強しているが、新庁舎でクーラーのあるような場所をオープンにしてもらえる空間はあるか。以前、用事があり愛知県の徳重駅へ行ったが、図書館やスーパーがあり、すごくにぎわいがあった。名古屋の端にあるため大した駅ではないと思っていたが、とても小さくてにぎわいがあり、人が集まっていた。図書館があるのも理由と思うが、とても良い場所だなと思った。多治見も虎渓用水広場という良い広場ができたため、市役所も1階を利用できる場所ができないかなと思っている。

→事務局

- ・工事期間中は重機を置かなければならず、機材のにじり寄りで一時的に工作物を設置することを検討しているが、広場をなくしたり縮小したりすることはしない。庁舎を検討する際、虎渓用水広場との一体性は考えており、特に1階が広場と連続性を持ったものになるよう、庁舎自体の設えもそうしたものになるよう検討している。法規制としても、広場を庁舎の前庭として位置付け、一体的に活用することを考えている。1階に店が入るのは難しく、声掛けはしているが参入してくれる事業者がいない状況にある。ただ、庁舎だけでなく土地区画整理事業を実施したエリア全体が高度利用されているとは言えないため、都市政策課で高度利用を促す方策を調査・研究している。
- ・いつ行っても広場を利用している人がいて、高校生が勉強や会話をしていて、とても雰囲気が良い空間である。市外の人や誘致した企業からは「あの広場を作った多治見はすごい」と評価して

議事概要

もらえ、誇りに思っている。広場が縮小することではなく、広場と一体的で使い勝手の良い駅北庁舎にすることがコンセプトの1つになっており、期待している部分でもある。本来は新庁舎の詳細を提示した上で、先ほどの自由通路についても議論すべきだったが、公表時期と会議が前後してしまい、お詫びするとともに、具体的な内容が出せた段階で再度議論させてほしい。

→委員

- ・縮小しないことが分かって安心した。ぜひ市役所の1階と連動した広場になると、階段を撤去すること自体には私も反対だが、市役所の中を通ることが楽しみになれば反対意見が減る気もするため、一体化した素敵な空間ができればよいと思う。

○委員

- ・この会議自体には微力ながら長く参加している。当初は、人口は減少している、陶磁器業界も下火であるという状況で、この会議に参加して何を話そうかと暗い気持ちで参加していた。何年か見ている中では、明るい話題が出てきている。多治見というまちはもともと好きで、計画を見るとまだまだ良いまちにしていきたいという思いはあるが、明るいものは見えてきている。

→会長

- ・大変重要なことで、行政も熱い思いを持っていることが分かったため、あとは市民と一緒に空間を作っていくことが、駅前には特に大事だと思う。

○委員

- ・7頁に「地方創生2.0の推進」とあるが、国の政権が変わり、方針も大きく様変わりするように思う。計画が出てくるのが2年先であれば、ここで取り上げるのが妥当か疑問である。

→事務局

- ・国の動向を記載したい思いがあり、次回の計画改定までに閣議決定されるものがあれば更新したいと思うが、政治の動きも踏まえて最終的な諮問の場で提示したい。

○委員

- ・5章全体に関わる内容だが、市を「中央部市街地エリア」「東部・北部丘陵地エリア」「西部・南部丘陵地エリア」の3つに分けているが、この分け方はこの計画独自のものか。上位計画でも同様の分け方をしているか。

→事務局

- ・都市計画区域マスタープランも同様の分け方となっている。

→委員

- ・中間改訂のため、このタイミングで変更しろとは言わないが、この分け方は適切ではないと思っている。意見として申し上げるが、東部・北部丘陵地エリアで高田・小名田・北栄と滝呂・笠原と一緒に考えるのは、市民の感覚的にも道路の動線的にも全く違う系統である。川を挟んで行き来しないことを踏まえたときに、当時計画を作った人があまり深く考えずに分けたように感じる。今回の改訂では不要だが、次回以降の計画改定や上位計画を変更する際に、分け方をもう少し考えてほしい。委員として、自分が還暦を迎える頃、そして子どもが社会人として成人する頃にどんなまちであるかを想像しながら計画を見ている。20年はあつという間だが、されど20年あるため、20年後にどうなるかを想像すると、このエリア分けは適切ではない。駅から道路がどう整備してあるか、基幹交通はどこにあるかなど、大前提の方針や計画が行政計画にかなり影響していると日々感じている。この部分を変更しないと、総合計画や道路計画や予算が変わらないという現実があるため、次回の改定時にはエリア分け自体を検討してほしい。

→事務局

- ・エリアの在り方については、今後継続して考えていきたいと思う。

→会長

- ・エリア区分図を見たときに、私もエリアが広すぎると思った。エリアが広すぎると、全体の方針とエリア別の方針が重複する。エリアの詳細な都市整備の方針を示すことも大事なことであるため、継続して検討してほしい。

○会長

議事概要

- ・会議の予定時間もあるが、計画改訂に向けて、これから素案を確定してパブリックコメントに進むため、気づいた点があれば都市政策課まで連絡してもらいたい。

6 閉会

(事務局)

- ・今年度の審議会は令和8年3月に第3回を予定している。日時や議題は後日改めてご案内する。
- ・(福田部長挨拶)

(12時00分終了)

-以上-